

マツダ車DTCチェックアプリケーション
Version 1.0

取扱説明書

ご利用の前に

- ・この取扱説明書をよくお読みになり正しくご使用ください。
- ・この取扱説明書は、製品と一緒に大切に保管してください。



警告

- (1) 故障診断機本体から煙が出る、異臭がするなどの異常がある場合は、ただちに車両のイグニッションスイッチと診断機本体の電源をOFFにして、ダイアグケーブルを抜いてください。
※ 火災の原因となります。



注意

- (1) 本アプリケーションは故障診断機専用です。販売元が認定する診断機以外の他メーカーの診断機には使用できません。
※ 診断機本体、アプリケーションソフトの故障の原因となります。
- (2) 本アプリケーションはマツダ車専用です。他メーカーの車両には使用できません。
※ 他メーカーの車両に使用すると、車両に悪影響をおよぼす恐れがあります。
- (3) 車を修理する場合は、カーメーカー発行の整備マニュアルに基づき修理を行なってください。
- (4) 販売元で認定している故障診断機用アプリケーションソフト以外のソフトやデータ類を、付属のCFカードにインストールしないでください。
※ 診断機本体の誤作動や故障の原因となります。
- (5) 診断機本体にCFカードを取り付ける時や取り外す時は、実行中のアプリケーションソフトを停止させ、電源をOFFにしてください。
※ アプリケーションソフト実行中や電源ONの状態ではCFカードの取り付けや取り外しをすると、故障診断機本体やCFカード内のプログラムやデータを破壊する恐れがあります。
- (6) 診断機本体に拡張計測ボードを取り付ける時や取り外す時は、実行中のアプリケーションソフトを停止させ、電源をOFFにしてください。
※ アプリケーションソフト実行中や電源ONの状態では拡張計測ボードの取り付けや取り外しをすると、故障診断機本体やCFカード内のプログラムやデータを破壊する恐れがあります。
- (7) CFカードを抜いた状態で故障診断機を長時間、放置しないでください。
※ CFスロット(挿入口)を開放したままにすると、本体内部にホコリや水滴が入り、故障となる原因を誘引します。
- (8) CFカードを水に濡らしたり、曲げたり、落としたり、衝撃を与えないでください。
※ 故障の原因となります。
- (9) CFカードを挿入する時は、診断機に向きを合わせ挿入してください。
※ 向きを間違えると故障の原因となります。
- (10) CFカードを分解、改造しないでください。
※ 故障の原因となります。
- (11) CFカードのコネクタ部分または内部に異物を入れないでください。
※ 故障の原因となります。
- (12) CFカードを直射日光のあたる場所、温度の高い場所、湿度の高い場所、ほこりの多い場所に放置しないでください。
※ 故障の原因となります。
- (13) CFカードのコネクタ端子に指で直接触れないでください。
※ 故障または接触不良の原因となります。
- (14) ケーブルの抜き差しは、コネクタハウジングをつかんで行ってください。
※ ケーブルを直接引っ張ると断線の原因となります。

目 次

1.	サポート範囲	1
1.1.	対象車種	1
1.2.	診断項目	1
1.3.	対象システム	1
2.	準備	2
2.1.	接続	2
2.2.	各種設定	2
3.	操作	3
3.1.	車両故障診断/点検メニュー	3
3.2.	車両故障診断メニュー	4
3.3.	全システムのダイアグコード点検	5
3.4.	システム選択メニュー	6
3.5.	システム診断メニュー	7
3.6.	ダイアグコードの点検	8
3.6.1.	ダイアグコードの点検	8
3.6.2.	ダイアグコードのクリア	9
3.6.3.	データ保存	10
3.7.	保存データの表示	11
3.7.1.	カテゴリー選択	11
3.7.2.	保存データの表示	12
3.8.	画面保存データの表示	13

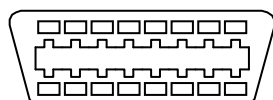
1. サポート範囲

1.1. 対象車種

(1)診断可能条件

本アプリケーションは、下記に示すすべての条件を満たすマツダ車のコントロールユニットで故障診断を行なうことができます。

- ・ 国際標準規格の診断コネクタ(SAE J1962/ISO15031-3のコネクタ)を装備した車両。
- ・ 本アプリケーションが診断対象としているシステムで、かつK-LINE(7番端子)、CANで故障診断通信を行うコントロールユニット。



[国際標準規格診断コネクタ]

1.2. 診断項目

本アプリケーションは、「1.1.対象車種」に記載の条件を満たすコントロールユニットに対して、下記の診断機能をサポートしています。

- ・ 全システムのダイアグコードの点検/クリア
- ・ 個別システムのダイアグコードの点検/クリア

1.3. 対象システム


本アプリケーションは下記のシステムをサポートしています。

エンジン
トランスミッション
ABS
エアバッグ
メータ
ボディ
電動パワステ
エアコン(EATC)
キーレス(RKE)
左スライドドア(LPSDM)
右スライドドア(RPSDM)

2. 準備

2.1. 接続

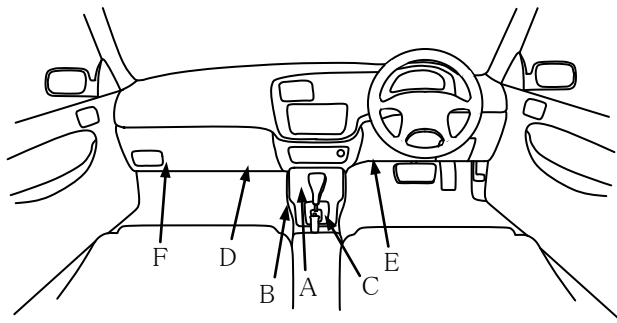
(1) 診断車両が対象車種(「1.1.対象車種」参照)であることを確認してください。

	注意	対象車種以外の車両に使用すると、車両に悪影響をおよぼす恐れがあります。
---	-----------	-------------------------------------

(2) 診断機の電源がOFFであることを確認し、CFカードを挿入してください。

(3) 診断機にダイアグケーブルを接続してください。

(4) 車両のイグニッションスイッチがOFFであることを確認し、下図A～Fまたは整備マニュアルを参考にして車両側診断コネクタにダイアグケーブルを接続してください。



(6) 車両のイグニッションスイッチをONにします。

(7) 診断機の電源をONにします。

2.2. 各種設定

故障診断を実行する前に「ダイアグモニタメニュー」より「ダイアグモニタの設定」を実行して、以下の項目を設定してください。設定方法等に関しては、診断機本体の取扱説明書をご参照ください。

項目	設定内容
日付・時刻の設定	日付時刻が違っていたら正しく設定しなおしてください。
キープッシュ音	キーを押した時のプッシュ音を設定してください。

3. 操作

3.1. 車両故障診断/点検メニュー

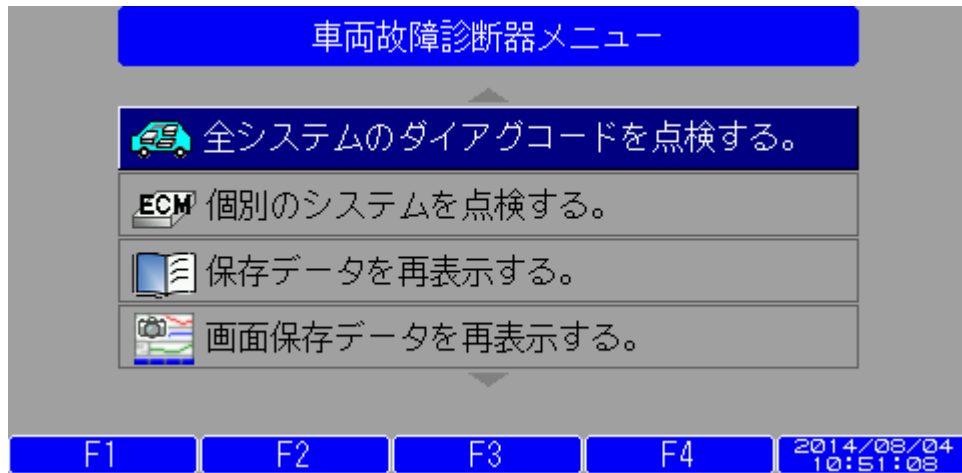
「ダイアグモニタメニュー」で「車両故障診断/点検をする」をYESで選択すると、車両故障診断メニューを表示します。



このメニューで「マツダ車のDTCチェック」をYESで選択してください。

「マツダ車のDTCチェック」を選択すると「アプリケーションロード中... しばらくお待ちください」と表示されます。CFカード内のアプリケーションを実行する準備を行なっていますので、電源を切らずに数秒間お待ちください。

3.2. 車両故障診断メニュー



メニュー項目をYESで選択すると、以下参照項の機能をそれぞれ実行します。

メニュー項目	参照項
全システムのダイアグコードを点検する	「3.3.全システムのダイアグコード点検」
個別のシステムを点検する	「3.4.システム選択メニュー」
保存データを再表示する	「3.7.保存データの表示」
画面保存データを再表示する	「3.8.画面保存データの表示」

3.3. 全システムのダイアグコード点検

本アプリケーションが対応する全システムと車両通信を行い、各システムが記憶している現在のダイアグコード(故障コード)を取得して一覧表示します。

全システムのダイアグコード表示	
システム	検出コード
エンジン	DTC無し
トランスミッション	DTC無し
ABS	DTC無し
エアバッグ	B1318 電源電圧の低下
エアバッグ	B1868 IPバッグ警告灯回路異常
メータ	DTC無し
ボディ	通信不能
電動パワステ	B1318 バッテリー電源系統/キーレス・コントロール・モジュール電源電...
エアコン (EATC)	通信不能
キーレス (RKE)	通信不能

F1 F2 F3 F4 画面保存 2014/08/01 12:21:37

取得したダイアグコードは、検出したシステム名を「システム」欄に表示し、コードと補足説明を「検出コード」の欄に表示します。ダイアグコードが発生していない場合は「DTC無し」と表示されます。また、車両に搭載されていない等の理由で車両通信に失敗したシステムは「通信不能」と表示されます。

<操作方法>

↑/↓	カーソルの移動を行いません。 すべてのコードが1画面で表示しきれない場合、画面がスクロールします。
C	前の画面に戻ります。
F4	画面のハードコピーを保存します。

- ※ 取得されたダイアグコードによっては補足説明がアプリケーションソフトに登録されていない場合があります。その場合は補足説明の部分に「整備マニュアルを参照ください」と表示されますので、カーメーカーが発行した対象車両の整備マニュアルを参照してください。
- ※ 取得されたダイアグコードによっては補足説明が検出コード欄内に表示しきれない場合があります。全文を確認する場合は車両故障診断器メニューより「個別のシステムを点検する」を選択していただき、該当するシステムより「ダイアグコードの点検」を実施してください。

3.4. システム選択メニュー



故障診断を行なうシステムを**YES**で選択してください。

システムを選択すると、故障診断を実行するための準備として車両のシステムと初期化通信を行ないます。選択したシステムと初期化通信に成功した場合、「3.5.システム診断メニュー」を表示します。

初期化通信でエラーが発生した場合、エラー画面を表示します。この場合、以下の原因が考えられますので確認してください。

- ① 故障診断コネクタの接触不良およびケーブル断線の確認。
- ② ダイアグケーブルとの接続の確認。
- ③ 対象車種の確認。

3.5. システム診断メニュー

システム選択後、故障診断を開始する為の初期化通信を実行し、成功すると「システム診断メニュー」を表示します。各機能項目をYESで選択した場合、それぞれの診断機能を実行します。



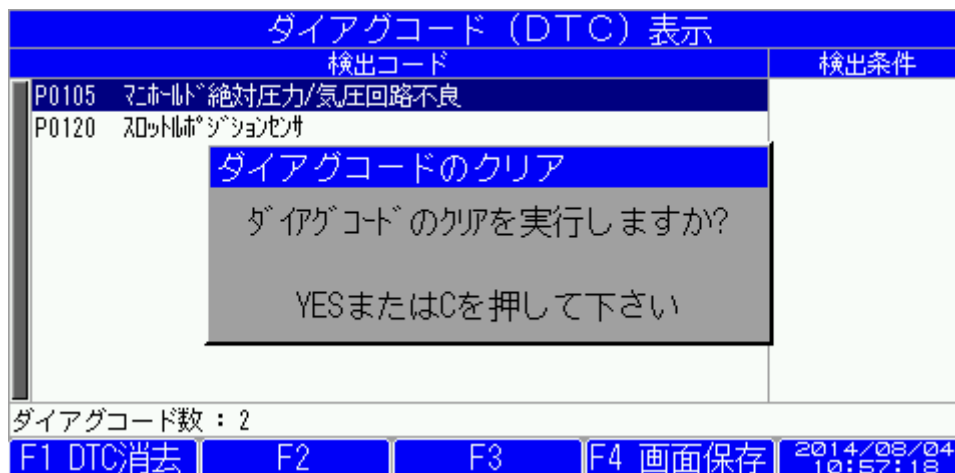
メニュー項目をYESで選択すると、以下参照項の機能をそれぞれ実行します。

メニュー項目	参照項
ダイアグコードの点検	「3.6.ダイアグコードの点検」
保存データを再表示する	「3.7.保存データの表示」

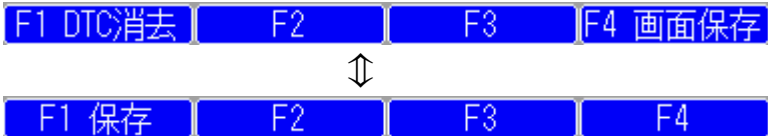
3.6. ダイアグコードの点検

3.6.1. ダイアグコードの点検

車両が記憶しているダイアグコード(故障コード)を取得し表示します。
 ダイアグコードが発生していない場合、「DTC無し」を表示します。



<操作方法>

↑/↓	すべてのコードが1画面で表示しきれない場合、画面のスクロールをします。
YES/C	前の画面に戻ります。
S	ファンクションキーの機能を示す表示が切り替わります。 
F1~F4	次項の「ファンクションキー」をご参照ください。

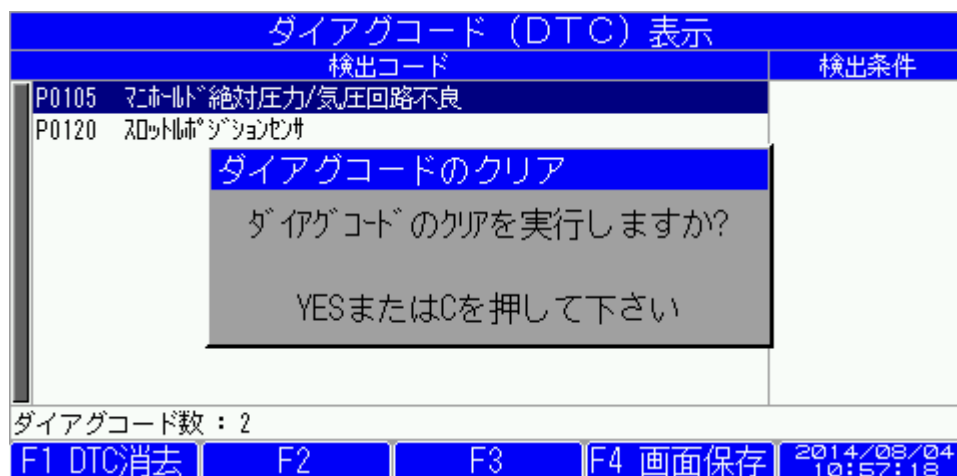
<ファンクションキー>

DTC消去	「3.6.2.ダイアグコードのクリア」
画面保存	画面のハードコピーを保存します。
保存	「3.6.3.データ保存」

※ 取得されたダイアグコードによっては検出コードがアプリケーションソフトに登録されていない場合があります。その場合は検出コードの部分に「整備マニュアルを参照ください」と表示されますので、カーメーカーが発行した対象車両の整備マニュアルを参照してください。

3.6.2. ダイアグコードのクリア

車両に記憶されているダイアグコードをクリアします。



<操作方法>

YES	ダイアグコードのクリアを実行します。
C	処理を中止し「3.6.1.ダイアグコードの点検」に戻ります。

3.6.3. データ保存

CFカードのデータ保存エリアに保存することができます。保存されたデータはいつでも参照することができます。

データ保存確認画面
[DTC]

ダイアグコード (DTC) 表示	
検出コード	検出条件
P0105 マニホルト絶対圧力/気圧回路不良	
P0120 スロットルポジショセンサ	

ダイアグコードの点検

データを保存しますか?
YESまたはNOを押して下さい

ダイアグコード数 : 2

F1 保存	F2	F3	F4	2014/08/04 11:28:13
-------	----	----	----	------------------------

<操作方法>

YES	データ保存を実行します。
NO	データ保存を中止し、実行前の画面に戻ります。

上記画面でYESを押すとデータ保存が実行されます。

※ 保存中は絶対に電源を切らないでください。保存データエリアが破壊され、他の保存データが表示できなくなることがあります。

また、データ保存が完了すると下記の確認メッセージが表示されます。

データ保存完了画面
[DTC]

ダイアグコード (DTC) 表示	
検出コード	検出条件
P0105 マニホルト絶対圧力/気圧回路不良	
P0120 スロットルポジショセンサ	

ダイアグコードの点検

データを保存しますか?
YESまたはNOを押して下さい

ダイアグコード数 : 2

F1 保存	F2	F3	F4	2014/08/04 11:28:13
-------	----	----	----	------------------------

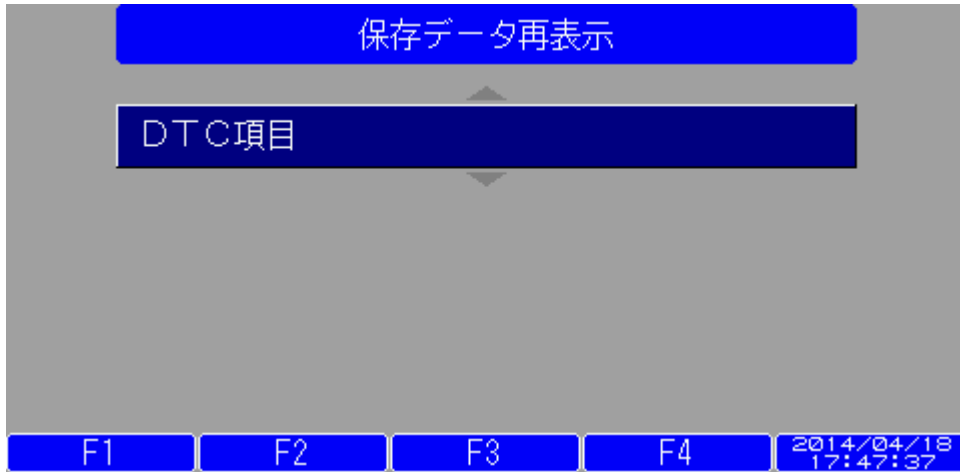
<操作方法>

YES	「データ保存」を実行した画面に戻ります。
-----	----------------------

3.7. 保存データの表示

「ダイアグコードの点検」によって保存されたデータを再度表示する場合に実行します。

3.7.1. カテゴリ選択



<操作方法>

↑/↓	カーソルの移動を行ないます。
YES	カーソル上のカテゴリ項目に絞込み、「保存データの表示」を表示します。
C	前の画面に戻ります。

3.7.2. 保存データの表示

選択したカテゴリ項目の保存データを表示します。

保存データがない場合、「保存データがありません」を表示します。

※日付の新しい保存データから順に上から表示されます。

[DTC項目]

DTC項目			
No	システム	ファイル作成日時	区分
1	トランスミッション	2014/08/04 11:29:02	
2	エアバッグ	2014/08/04 11:28:54	
3	ABS	2014/08/04 11:28:38	
4	エンジン	2014/08/04 11:28:15	
5	エンジン	2014/08/04 11:28:02	

F1 データ解析 | F2 削除 | F3 バックアップ | F4 リストア | 2014/08/04 11:29:25

<操作方法>

↑/↓	カーソルの移動を行ないます。	
YES	DTC項目	カーソル上の保存データを読み、「3.6.1.ダイアグコードの点検」へ移行します。
C	保存データの選択を中止し前の画面に戻ります。	
S	カーソル上のデータを選択/非選択状態にします。	
F1	データ解析対象選択画面を表示します。 「カーソル上のデータ」 「すべてのデータ」 「選択されたデータ」 ※Sキーで選択されたデータがある場合のみ表示されます。 選択された項目に該当するデータをパソコン側アプリケーション「PCデータセーバー」に解析用データとして転送します。	
F2	カーソル上のデータを削除します。 ※ 削除中は絶対に電源を切らないでください。保存データエリアが破壊され、他の保存データが表示できなくなることがあります。	
F3	バックアップ対象選択画面を表示します。 「カーソル上のデータ」 「すべてのデータ」 「選択されたデータ」 ※Sキーで選択されたデータがある場合のみ表示されます。 選択された項目に該当するデータをパソコン側アプリケーション「PCデータセーバー」にバックアップします。	
F4	パソコン側アプリケーション「PCデータセーバー」でリストア対象に指定したデータをリストアします。	

3.8. 画面保存データの表示

画面保存によって保存された画面のハードコピーデータを再度表示する場合に実行します。
 ※日付の新しい画面保存データから順に上から表示されます。

No	システム	ファイル作成日時
1	エアバッグ	2014/08/04 11:32:15
2	トランスミッション	2014/08/04 11:32:09
3	エンジン	2014/08/04 11:31:57

F1
F2 削除
F3 バックアップ
F4 リストア
2014/08/04 11:32:49

<操作方法>

↑/↓	カーソルの移動を行ないます。
YES	カーソル上の画面保存データを再表示します。 再表示後YESを押すと、この画面に戻ります。
C	保存データの選択を中止し前の画面に戻ります。
S	カーソル上のデータを選択/非選択状態にします。
F2	カーソル上のデータを削除します。 ※ 削除中は絶対に電源を切らないでください。保存データエリアが破壊され、他の保存データが表示できなくなることがあります。
F3	バックアップ対象選択画面を表示します。 「カーソル上のデータ」 「すべてのデータ」 「選択されたデータ」※Sキーで選択されたデータがある場合のみ表示されます。 選択された項目に該当するデータをパソコン側アプリケーション「PCデータセーバー」にバックアップします。
F4	パソコン側アプリケーション「PCデータセーバー」でリストア対象に指定したデータをリストアします。

■お問い合わせについて

この製品について不明な点がある場合や故障と思われる場合には、故障診断機キットに同梱されています
故障診断機本体取扱説明書のお問い合わせ先まで、ご連絡ください。

マツダ車DTCチェックアプリケーション Version 1.0

取扱説明書

2014年 8月 初版発行

本書の内容の一部、または全部を販売元の許可なく複写、複製、転載することを禁じます。